

8月のお代官様～ブレイブ・ブロッサムズ

さて8月、ラグビーワールドカップまであと1か月、刻一刻と本番が近づき、大会仕様のジャージも発売し、最終調整のテストマッチが続いています。強いジャパン、スコットランドかアイルランド倒して目標のベスト8？もっと勝ち進んで世界を驚かす？優勝杯のエリスカップを天にかざすリーチ・マイケル主将？なんて、夢を見ながらワクワクしています。



1. 釜石・鶴住居(7月26日)

Blessing grant oh God of nations on the isles of Fiji
As we stand united under noble banner blue
And we honor and defend the cause of freedom ever
Onward march together God bless Fiji
For Fiji, ever Fiji, let our voices ring with pride
For Fiji, ever Fiji, her name hail far and wide,
A land of freedom, hope and glory, to endure whatever befall
May God bless Fiji Forever more!



JTBで東京発のツアーを発見して、申し込み。東北に向かうのは、あの災害後初めてで、復興の進捗状況をこの目で確認したいのと、ラグビーファンとして北の聖地を体感したいと常々思っていましたし、これらの実現という意味でも価値ある旅になりました。



前乗り込みの東京では、会社の福利厚生チケットで、東京ドームの巨人・阪神戦を観戦。オレンジシートと言って、ジャイアンツ応援に限るシートで、オレンジのタオルまで貰って、エース菅野と坂本を応援。こっそり「きー太」人形を持って、ソーラーテのセクシータイムに小さく拍手。TPOだけは守って、しっかりとビールを飲んで、楽しく野球を観戦。



翌日新幹線で盛岡へ、2時間半かけてバスにて釜石の鶴住居スタジアムへ直行。津波で全て流された場所に、スタジアムを建設。誘致のための視察が来た時は、グラウンドの四隅に該当する場所に大漁旗を立てただけの状態、建設計画と復興のビジョンを説明して、「復興のシンボル」としてこの地で開催することに決まったそうです。



今回は、初のワールドカップ仕様のテストマッチ開催で、入場チェックの段取りの悪さ、屋台で飲食物購入する際の行列など、運営のまずさばかりが目立ちましたが、東北の純朴で温かいボランティアの皆さんの努力で、手作り感あるテストマッチ開催になったかと思えます。



対戦相手は、フィジー。特大フォワードがステップを切り、バックもフォワードサイズ。フィジアン・マジックなんて言葉で示されるような、展開ラグビーをするエキサイティングなチームです。かつて、三菱自工京都で活躍したセレビのステップ、手に吸盤がついているようなハンドリングを思い出しました。



選手入場、国歌斉唱、ウォーククライ(シビ)と続いてキックオフ。予想に反して日本の動きが素晴らしい。特に我らがトモさん、近鉄のトンプソン・ルーク、38歳で代表のロックとして、ひたすらボールに絡み、前に出て、相手を止める、いい仕事しています。バックス陣も松島幸太郎のドリブルトライ、スクラムハーフの茂野の動きも良いし、今までのジャパンと一味違う。今回はフィジーのスピードに翻弄された部分もありましたが、暑さのせいか集中力を欠くハンドリングエラーに助けられて、34対21というスコアで勝利を手にしました。





今回、ツアーゆえ勝利の余韻に浸ることなく、バスに急ぎます。盛岡に戻って、ホタテにエビ、お刺身、天ぷら、海の幸で乾杯です。さすが東北、「盛岡さかな市場」なる酒場は楽しく美味しくお食事できる至福の空間です。翌朝は、市内を散歩。盛岡城址、岩手銀行赤レンガ館、開運橋など写真に収めてから東京に戻りました。





2. 東大阪・花園(8月3日)

'E'otua mafimafi ko homau 'eiki koe
ko koe ko e falala'anga mo e 'ofa ki Tonga.
'Afio hifo 'emau lotu 'aia 'oku mau fai ni
mo ke tali homau loto 'o malu'i 'a Tupou.



西の聖地、花園でのテストマッチは、トンガ戦。トンガと言えば、古くはノフォムリ、ポポイ、ラトゥーと日本のラグビー界を盛り上げたガイジンパワーの国。現在も、タウファ統悦、マフィーなど大和魂を秘めたトンガ人が、日本代表の試合を引っ張ります。

日本と関りの深いトンガチームが、東大阪に来てくれるなら歓迎しなくては・・・と考えて「大阪からラグビーW杯2019を盛り上げる実行委員会」発案のイベントに参加しました。トンガ・カラーの真っ赤なTシャツ(タウファ統悦さんデザイン)

を着て、トンガ国歌を歌ってチームを歓迎するもので、この日に備えて、「エーオトゥア・マフィマ」と歩きながら歌詞を覚えてきました。まあ、スクラムユニゾンというムーブメントもあって、今回のW杯参加国の国歌を、元日本代表の廣瀬選手と、男女2人の歌手が歌ってYouTubeで流して紹介しています。これと合わせて、個人的にも国歌を覚えている状態で、これ、全て覚えたら、強力な宴会芸になるとは思いませんか？（この原稿を書いている時点で15か国ぐらいは、歌えるはずで、門真市歌と京都産業大学学歌と合わせてお披露目する日が来るかもです。）



こちらの入場は、すんなりと。たぶん、釜石の状況を聞いて立て直したのか、大阪のチェックが適当なのか、まあレガシー貫うのに行列したのと、帰りに近鉄・東花園まで行くのに遠回りさせられたことが苦痛だったかな。ビールも入場に近い売店では、購入するのが大変そうでしたが、第2グラウンド横では、楽々購入。試合開始まで立ち飲みできるテーブルとか置いて欲しいなどと贅沢を言って過ごしました。

場内の照明が落ちて選手入場、両国国歌斉唱、ウオークライ(シピタウ)と続いてキックオフ。レフリーは、あのブライトンの奇跡を吹いたジェローム・ガルセスさん。トンガ・フィフティーンは、前週のフィジー以上にでっかくてパワーに勝るイメージです。特に両プロップのサイズが、半端無い。こんな相手スクラム組むのは過酷かと想像するも、鍛え上げたジャパンフォワードは互角に渡り合う。ボールがタッチを切ると、クイックスローでテンポを演出するフィジーに対して、セットプレーからのぶちかましを武器にするトンガの攻撃は、後半の動きに影響するのでは、と心配するもやっぱり鍛え方が違うのか、後半戦にウイング爆発、松島、福岡の連続トライ。マフィーも祖国相手にイケイケ、堀江のドレッドヘアーが躍動して、41対7というスコアで大勝です。



パワフルなアイランダーのフィジー、トンガと互角に渡り合ったジャパンには期待できそうです。W杯に備えての課題は、相手の弱点を見つけるのが、上手いイギリス諸国とどのように戦うか、特に同じプールBのスコットランドのスクラムハーフが操る連続攻撃、変幻自在のニュージーランドやオーストラリアに対抗できるか、本気の南アフリカを振り返りにできるか、アルゼンチンの足払いタックル、フランスのハーフ陣の多彩なキック攻撃・・・おっと、課題だらけですが、ジャパンラグビーに期待しましょう。

ラグビーワールドカップ、2019年9月20日開幕です。



令和元年8月7日記

[トップ](#)
[戻る](#)

[9月のお代官様～ひまわり](#)